

教育委員会第1回定例会議 会議録

1 日時 平成23年1月19日(水)
開会 13時30分
閉会 14時50分

2 会場 金沢市本庁舎 4階401会議室

3 出席委員(6名)

教育委員長	佐藤秀紀
教育委員	前川信政
〃	柳下道子
〃	米井裕一
〃	岡能久
〃(教育長)	浅香久美子

4 欠席委員(1名)

教育委員 早川芳子

事務局	教育次長(兼)学校職員課長	西崎辰雄
	学校教育部長	横山光雄
	(兼)市立工業高等学校教育改革推進室長	
	教育委員会担当部長(兼)教育総務課長	平嶋正実
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	高村政博
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	長谷進一
	教育委員会担当部長(兼)学校指導課長	上林雅彦
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	山田裕
	学校指導課主席指導主事	山下美奈子
	市立工業高等学校事務局長	詩丘樹持
	市立工業高等学校教頭	小酒正明
		(その他(1)のみ)
	生涯学習部長(兼)生涯学習課長	縄寛敏
	都市政策局担当部長(兼)歴史建造物整備課長	野島宏英
	玉川図書館長(兼)近世史料館長	森田勝
	(兼)城北分館長	
	泉野図書館副館長	廣田康太郎
	玉川こども図書館副館長	村田健
	金沢西部図書館開設準備室長	石蔵茂幸
	教育プラザ富樫総括施設長	川原利治
	(兼)地域教育センター所長	
	(兼)研修相談センター所長	

5 案件

議案第1号 平成23年度県費負担教職員人事の内申の基本方針(案)について

(学校職員課)

- 非 議案第 2 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会への諮問について
(歴史建造物整備課)
- 報告第 1 号 第 2 次学校教育金沢モデル構築戦略会議からの提言について
(学校指導課)
- 報告第 2 号 平成 2 2 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
(学校指導課)
- 報告第 3 号 新「健康手帳」の作成について
(学校指導課)
- そ の 他
(1) 金沢市高等学校教員長期派遣研修報告について
(2) 平成 2 2 年度成人式実施結果について
(3) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として米井委員を指名し、柳下委員の再任について報告した。本日の議題について佐藤委員長が議案第 2 号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第 1 号、報告第 1 号、第 2 号、第 3 号、その他 (1) (2) について資料に基づき説明があり、質疑応答が行われ、原案どおり可決・承認した。また、2 月の定例会議の開催日を次のとおり決定し、閉会した。その後、議案第 2 号について非公開で審議に入り、原案どおり可決し、閉会した。

* 2 月の定例会議の日程：平成 2 3 年 2 月 1 6 日 (水) 1 3 : 3 0 ~

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

議案第 1 号 平成 23 年度県費負担教職員人事の内申の基本方針 (案) について (学校職員課)
(説明の概要) 今年度教職員の不祥事があったことを踏まえ、前文には学校・教員への信頼を高める狙いとして「学校教育に対する信頼を高め」という文言を盛り込み、実際の異動に関しては年齢構成、男女比、校種などの面でバランスの取れた人事配置により、信頼を高めるべく一層努めていきたい。

異動作業上の留意事項としては、昨年度と同様に「(1) 知、徳、体のバランスを重視し、個性豊かな児童生徒の育成を図るための人事配置に努める。(2) 魅力ある学校づくりを推進するため、教職員の適性に応じた適材適所の人事配置に努める」として、総合訪問などで把握している各校の課題を解決するため、校長からの具申、各教員の特徴、本人からの異動希望調査を総合的に勘案し進めていきたい。また、「(3) 学校教育の活性化を図るため、学校が組織として機能する人事配置に努める。(4) 教職員が多様な経験ができるよう、校種間、教育行政との人事交流の促進に努める」に関しては、主任、ミドルリーダーの配置、校種と行政との交流など、人材の育成も考慮しながら進めていきたい。

(特になし)

報告第 1 号 第 2 次学校教育金沢モデル構築戦略会議からの提言について (学校指導課)

(説明の概要) 第 2 次学校教育金沢モデル構築戦略会議については、これまでの学校教育金沢モデルの検証を踏まえ、これからの金沢市にふさわしい教育のあり方を検討するために平成 21 年 7

月に設置されたものである。これまで3度にわたり協議を進めてきたが、去る1月12日に「金沢の学校教育のあり方について」として教育委員会に提言をいただいた。委員は資料6ページに記載のとおり、金子助榮委員長をはじめ7名の有識者の皆さまである。

7~8 ページは本提言の概要図で、基本的な考え方は「『絆』」の考え方を基軸にした金沢の学校教育～第2次学校教育金沢モデルの推進～」である。その下に「金沢『絆』教育」「『世界都市金沢』小中一貫英語教育」「学習指導基準金沢スタンダード」「学校2学期制」、この第2次学校教育金沢モデルの四つの柱を中心として、金沢の学校教育への期待が示されている。一方、今後の教育の中で大切なこととして、一番下の枠に、「豊かな読書・体験活動の充実」以下、五つの視点から期待されることについてご意見をいただいた。これらのことを踏まえて、「絆」の考え方を基軸にした第2次学校教育金沢モデルを中心として金沢の教育を推進していく。

中央の丸の中には施策の具体化に向けた3つの視点が示されている。1つ目は「生きた教材『金沢』の活用」で、金沢のひと・もの・ことを活用し、それらとのつながりの中で豊かな学びを展開することを期待する。2つ目は「家庭と学校のパートナーシップ」で、家庭がその役割を果たすことを大切に、学校と家庭がパートナーという関係に立って互いに支え合いながら、子どもの健やかな成長を期待する。3つ目は「専門性を生かす高等教育機関との連携」で、学術都市としての機能を活用した高等教育機関との協力により、互いに連携の良さを享受し合い、高め合うことを期待する。以上が概要である。

今後、本提言の趣旨に沿って施策を展開し、「世界に羽ばたく社会の担い手づくり」という大きな視点を持って着実に進めていきたい。なお、別紙資料に本提言を付けたのでご覧いただきたい。

米井委員

基本的なことですが、この提言書の位置付けを少しご説明いただきたい。この提言がこれから先、どのような形で教育行政に反映されていくのか、この提言書の役割のようなものを含めて。

上林学校指導課長

平成16年度から学校教育金沢モデルを実施し、21年度は第2次学校教育金沢モデル構築の年として位置付けてきました。それを受けて来年度以降は、各界の皆さんからいただいた提言の趣旨を基に、それに沿った施策を展開していきたいと考えています。ですから、今年度までは構築していくという視点が大きいかと思っています。今後はこの提言を受けて、「絆」の考え方を基軸に取り組んでいくので、「絆」をつくるためにやるのではなく、いろいろな施策に取り組んでいく中で、お互いに「絆」を感受できるような提言をいただいたので、各学校の取組、施策等でも、そのような形で取組を進めていきたいと思っています。

米井委員

方向性としては「世界に羽ばたく社会の担い手」ということで、世界を非常に意識されているし、その中心が「絆」教育であるという話ですが、この「絆」教育は金沢の教育の中でどういう比重を持っているのか。例えば今までしたことを見ていると、ユネスコスクールや全校一斉のあいさつ運動であったり、いわゆる課外学習的な感じで受け取られがちですが、図を見ると、真ん中に一本筋の通ったということなのか、色づけとして強化していくという話なのか、その辺が図だと少し分かりにくいのです。メインではあるのだけれども、全体の教育の中での重さがよく分からないので、その辺はもう少し整理をお願いします。

上林学校指導課長

確かにここ2年間は、金沢「絆」教育を加えたので、そのきっかけづくりを中心に施策を展開してきました。ただ、「絆」教育は人とのつながりを基盤にしているので、その中で社会と自然と世界との「絆」という観点にも取り組んでいるわけです。この観点で考えるならば、いろいろなつながり等を通して「絆」を感受できるという、施策を非常に広げたような位置付けも必要かと思っています。ですから「絆」の観点で、全体についても、

取り組んだ結果、「絆」という意識が出来上がり「絆」というつながりを、子どもたち、先生方ともに感じてくれるようになっていきたいと思います。どの項目についても、やはりつながりが最終的に意識されればいいかと思っています。

佐藤委員長

この会議の中ではかなり一般論的なことから話が始まったのですが、その中で各委員から比較的共通して述べられたことは、今の子どもたちは人間関係が希薄であったり、うまくいかなかったりするので、そういうことが非常に大切ではないかということです。そのために金沢「絆」教育の構築は非常に重要であるという意見は共通して出てきたかと思えます。そういう人間関係、学校の具体的なカリキュラム、知・徳・体を進めるに当たって、金沢としては、「絆」というものを大きな柱として立てていこうではないか、それをベースにいろいろな考え方をまとめていこうではないかという意見が出ていたかと思えます。いろいろな視点があるとは思いますが、「絆」というものを軸に金沢の学校教育を進めていこうということの原点には、そういう話があると私は理解しています。

また、「絆」は一つの関係付けですから、人間とのつながりの問題がベースにあることを意識しながら、いろいろな問題点を「絆」という言葉でまとめていこうということが、こういう形になった経緯かと思っています。

報告第2号 平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について（学校指導課）
（説明の概要）この調査は国が行っているもので、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上にかかわる施策の成果と課題を検証し、改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルの確立、また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てることを目的としている。実施方法だが、対象学年は小学校5年生、中学校2年生で、調査方式はこれまでの全数方式から今年度は抽出方式に変更されている。学校数として、金沢市では小学校17校、中学校6校で、抽出率は記載のとおりである。

結果の概要は、表の左側が小学校5年生、右側が中学校2年生で、それぞれ上から男子、女子、質問紙調査の順となっている。金沢市の状況が国平均を上回っているものは国の欄の数値に網掛けをしている。県平均を上回っているものは石川県の欄の数値に網掛けをしている。また、金沢市の今年度と前年度を比較して、今年度が前年度を上回っているものには 印を記載した。

体格については、小学校5年生男女と中学校男子の体重を除き、すべての項目で国の平均を上回っている。体力・運動能力については、小学校は男女ともソフトボール投げ、中学校は男女とも握力と持久走を除いた全種目で、国の平均を上回っている。市の今年度と前年度の結果を比較すると、小中とも男子は約半分の項目が、女子はほとんどの項目が、昨年度を上回る結果となった。また、県平均と比較すると、前年度は県より上回っている項目がそれぞれ1~2項目程度だったが、今年度は項目の増加が見られる。

一方、質問紙調査の結果だが、小学校では「毎日運動している」の項目が国の平均を下回っているのに対し、中学校では全項目で上回っている。今回の結果、全国では上位にあるが、毎日運動し、朝食をきちんと取り、適度な睡眠を取ることが体力向上に大きくかかわっているとされていることから、こうした指導を含めて、さらに健康教育の観点でも取り組みを進めていきたい。

佐藤委員長

全般的に見て昨年よりは良くなっているというお話で、大変結構かと思えますが、もう少し検討していただければと思う観点があります。

まず、これは平均値で比べています。確かに一般的な評価としては、平均値より下回っているとあまりよくないと思いますが、平均値といえば真ん中ぐらいです。もう少し積極的に上位に行く、あるいはどの程度の順位にあるのか、全国的に見て、あるいは県内においても、そういう全体的な位置付けを少し注意して見ていただいて、それでいいのかという検討があ

れば、あるいはメッセージがあればいいかと思います。ここには書かれていませんが、事務局としては把握しているのだろーと思ひます。

もう一つ、これは前年度との比較ということで示されていますが、このようなデータは長い期間を経た傾向がどうなっているのかということが重要かと思ひれます。データの分析等をされる時、あるいはここに出していただくようなときも、例えば10年間ぐらひの経緯がどうなっているのかとか、もう少し長いスパンでの傾向を見るようなデータがあると、より状況が分かるかと思ひます。

今言ったことについて何かコメントがあればお願いします。

上林学校指導課長

このデータは文部科学省から送られてきたデータをそのまま載せました。文部科学省のデータの分析が現在平均値で表されているので、そのとおり出しましたが、今後どういふ分布にあるのかということも少し考えていきたいと思ひています。

それから長い期間のデータについては、学校保健会との連携の中で出ている資料があるので、その資料は各学校に行っています。

なお、これは平均ということで、本当にいろいろな見方がありますが、各学校でどこが弱いのか見ていただくことが大きな狙いかと思ひます。今後そういう観点で、この資料を生かしたものになるように努めていきたいと思ひています。

佐藤委員長

文科省からは平均値で比較うんぬんということはあるんですが、多分県別の値などは全般的に公表されてますよね。市町村まではなっていないかもしれませんが、もう一步踏み込んだ分析が必要かと思ひます。もう一つ、確かに実質上は各学校がいろいろ対策を講じることが大切な点かと思ひますが、市全体として見渡したときに、どこが伸びているのか、まずいのかといった、やはり市全体としての分析が必要だと思ひますので、その辺もまた検討していただければと思ひます。

米井委員

一つだけ確認を。調査項目の中に「毎日運動している」とありますが、運動の基準やガイドラインなどがあるのですか。

上林学校指導課長

特にこういうことというものはありません。

米井委員

その割に回答が割と平均しているので、みんなそれぞれぶれずに、答えが並んでいる気がしますが、どういふレベルで運動している、していないと判断しているのか、ちょっと分からないなという感じですが。子どもたちはどのような基準で丸を付けたりしているのか、非常に素朴な疑問ですが。

上林学校指導課長

それについては、子どもも質問紙をそのまま出すので、中学校の場合、「毎日運動している」といふ数字は県、国から見て非常に高い割合を示しています。これは恐らく運動部の加入率が高いことが影響しているのではないかと思ひます。ただ、子どもたちの中には、週4日、5日といふことで毎日に丸を付けなかったり、おっしゃるとおり、確かに基準がばらばらになってくる可能性もあるかと思ひています。これは全国的に同じですが、その中でこの数字ですので、比較的孩子たちの意識に任せたといふところがあるかと思ひます。

そう言われれば「朝食を毎日食べる」も、全国の学力状況調査等でも出ているので、2%程度ですが、確かに金沢市は高いと思ひます。逆に小学校5年生の男子、女子の「毎日運動している」といふ項目は低いと出ているので、このあたりがどういふ基準かということも、もう一度確認して話をしたいと思ひます。子どもたちの感覚に任せているというのが現状です。

佐藤委員長	<p>数字的に見ると、運動部加入率は非常に高いのに、「運動している」に対しては、特に小学校の4%ぐらいというのは結構差が大きいような気がします。この辺はどのように解釈すればいいのか、少し難しいところがあるのでしょうか。一方で、運動する子は部活に入ってどんどんするけれども、しない子はしないという二極化の傾向があるという話も聞きます。そういう二極化している状況が金沢市にもあるとすると、そういうことも一つ考えなければいけない点になるという気がします。</p>
前川委員	<p>今年度から抽出方式になったということは、これまでは全数でしていたのですよね。学力調査の場合は、抽出になったけれども、金沢市の場合は全数でしているのですが、この調査については、抽出されなかった学校はどうされたのですか。</p> <p>もう一つ、自分の学校の成績は当然もらうのだと思いますが、実際それを見た上で、現場ではどのような対応をするべきなのか、あるいはするように教育委員会として指導されるのか、そのあたりをお聞かせください。</p>
上林学校指導課長	<p>本年度抽出されなかった学校についても、すべての学校でこの調査をしていると聞いています。</p> <p>それから、少し話は違うのですが、小学校では来年度から学習指導要領も変わってきますし、中学校は再来年からですが、体育の時間が多くなります。そしてこの結果を基に各学校において、特に小学校では2限目と3限目の間の長い休み時間を利用した取り組み、体育の時間における準備運動のいろいろな活用、持久走などが弱いという結果が出たところは走力の部分を多めに増やしていくようなことで、具体的には体育の時間と昼休みの時間、さらに2限目と3限目の間の時間で、計画的に取り組みを進めている学校が多いと思います。中学校では体育の時間を中心に、また、部活動の準備運動等の中ではどの部も同じようなことをして、自分たちの学校の弱いところに組織的に取り組んでいるところもあると聞いています。この結果を各学校が大切にしながら、そのような時間帯の中で取り組んでいるというのが現状だと思っています。</p>
前川委員	<p>そのようにいろいろやっていく上では、学力と一緒に、運動能力にも個人差があるので、それを含めた指導をしないとダメですね。全体の水準を上げるために運動能力の低い子に余計な負担をかけて、かえって運動が嫌いになったり、体育の授業が嫌いになったりとなると本末転倒なので、そのあたりは現場でしっかり対応していただきたいと思います。</p>
上林学校指導課長	<p>そのあたりは大変大事なことだと思います。個人の目標を設定して、それに取り組むということがだんだん多くなっているようです。何周走ろうというようなこともあります。自分の能力に合わせて、一つ一つ目標を立てて取り組んでいる学校が多くなってきたという実感を持っています。</p>
佐藤委員長	<p>これは学力についても言えることで、体力・運動能力などについても、平均値的な観点も大切ですが、金沢市全体としてどういう状況にあるのかを分析した上で、各学校での適切な指導をお願いします。</p> <p>前川先生からもやり方についてお話がありましたが、なかなか難しいところがあって、どんな教育でもある程度は強制しなければいけないのですが、それが度を過ぎては逆になると思います。全体としてのレベルだけでなく、個人から見たレベルも大切だろうと思いますので、適切な指導をお願いします。</p>

報告第3号 新「健康手帳」の作成について（学校指導課）

(説明の概要) 第2次金沢市健康教育推進プランでは健康手帳の活用が示されており、家庭における健康づくりを促すきっかけとして活用できるように、約50年ぶりに新「健康手帳」の作成を行った。作成に当たっては養護教諭を中心に、金沢市医師会、金沢市歯科医師会、金沢市薬剤師会、金沢大学などの先生方から専門的な見地でのご意見をいただいた。小学校では保護者が子どもと一緒に見たり、考えたり、共に健康づくりについて考えることができる資料としたい。また、中学校では自らの健康づくりについて目標を立て、考え、行動できる資料となるよう工夫した。

構成については、これまでの健康手帳は健康管理部門の記録が中心だったが、新たに健康情報部門を加え、2部構成とした。

健康管理部門については、従来どおり保健調査、発育や健康診断の記録、新たに新体力テストの結果などを記載していく欄も設けた。

健康情報部門については、「(ア)観点」として、金沢市健康教育推進プランに示された七つの重点的な健康課題を題材として取り上げる。二つ目に、日常生活の中において自分自身を振り返ったり、行動するきっかけとなる内容としたい。三つ目に、金沢特有の文化や食生活等を生かした題材を掲載したいと考えている。

「(イ)配慮した点」としては、子どもや保護者が書き込むページを設定し、その中で成長の様子や心身の健康づくりの取り組みの足跡を残していけるようにしたほか、コラムや資料等で健康についての啓発を図る身近な題材を積極的に取り入れている。なお、サンプルとして食育の項目を載せた。今申し上げた観点や配慮した点がうかがえるのではないかと思う。14ページの3番には「加賀野菜を使った料理をつくってみましょう」と、加賀野菜の給食の様子も載せた。

「(ウ)活用の方向性」としては、各校で保健主事、養護教諭を中心に効果的な活用を検討することとしているが、これまでの検査の結果のときだけでなく、年度初め、定期健康診断後、あるいは長期休業中に家庭で活用することも必要かと思っている。

また、後ろの健康情報部門のデータについては、電子媒体として各学校の授業でも活用できるようにしたい。新「健康手帳」は平成23年度の小中学校1年生を対象に配付する予定である。

米井委員

これでもう製本されていくのですか。

上林学校指導課長

大体その形です。

米井委員

感想だけ一つ言います。中学校の方の26~27ページですが、修正がどうという話ではなく、性教育に関するところがあまり整理されていない気がします。これは私の個人的な感覚ですが、性に関することと性別に関するものが混在していて、そこにぼつんとエイズが出てくると唐突な感じがします。中学生になると体格的にはほとんど大人と言っていいような子も多くなってきているので、このあたりはある意味でリスクと考えると、やはりはっきりと教えなければいけない部分なのかなという気がします。そういうことから見ると、核心には行かず、ただど少し触っているというような感じのページです。

実際、これを教材にも使うという話ですから、その辺は教科書にも載っているところなのでしょうが、やはりしっかりと冷静に、意識して教えていただければという気がします。ほかのページはよくできていると思いますが、このページだけ見ると非常に中途半端だなという感想を持ちました。これは意見として申し上げさせてください。

前川委員

今のご意見はもっともだと思えます。健康教育推進プランの中にはこういう記述を出してあるので、それをここに持ってきたのだと思いますが、もう少し工夫して書く必要はあるかなという印象は持ちました。ただ、大変難しい問題だと思います。

質問ですが、この手帳そのものは、実際にはどこに保管するのか、どう

いう状況で学校と家庭でやりとりするのか。通常は学校の保健室にいつも置いてあるような印象を持っているのですが、そうだとすると、家庭に持ち帰ることはあまりない、家庭で見ることがあまりないとすれば、せっかくいろいろな情報があっても、子どもたちも親御さんも見る機会が少ないのではないかと思います。そうすると、この手帳を学校と家庭でどのようにやりとりしながら、その中で子どもに理解させるのか、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

上林学校指導課長

今のご質問ですが、内容の問題もあるので、原則的には保健室で保管したいと思っています。保健主事、養護教諭が相談しながら、いつの時期に家庭に渡すかということも含めて、今後検討していきたいと思っています。これまでは検査のたびに返していましたが、これからは夏休みや冬休みなどにも、各学校から家庭にお返ししていくという観点で取り組んでいきたいと思っています。

なお、26～27ページについていろいろご指摘をいただいておりますが、この部分については保健の教科書で十分できるだろうということで、委員の皆さんからは、命の尊さや、お互いの性を尊重するという観点を載せたいという意向がありました。知識的なもの、もっと深い部分については、保健のノートや参考資料に十分に書かれているので、子どもたちが振り返って見るときに、お互いの性を尊重すること、命の尊さを考えてほしい、そういう観点も性教育にあるということで、あえてここで載せました。

佐藤委員長

私がこれを見せていただいた感想としては、従来のものに比べると、随分データや、いろいろなことをやってみよう、あるいは記入するところもあったりして、健康を維持していくという趣旨から言うと非常に良いのではないかと思います。また、家庭で親にも見てもらって、親と一緒にいろいろな話をして進めるといふときの資料にもなるかなという感じはしています。先ほど出た点等については、またご検討いただくようなことがあるかもしれませんが、私としてはなかなか良い手帳だと思いました。

その他(1) 金沢市高等学校教員長期派遣研修の実施報告について

(説明の概要) 先進的な取り組みを行っている県外の工業高校に本校の教員を長期間派遣し、そちらで実際に授業を行い、校務に携わることで、今後の本校の教育指導や学校管理運営に役立てることを目的としている。平成22年11月1日～12月24日まで約2カ月間、大阪市立都島工業高等学校に本校の小酒教頭を派遣した。小酒教頭より結果、内容について報告させていただく。

小酒市立工業高校
教頭

金沢市立工業高校教頭の小酒です。簡単に3点についてご報告したいと思います。

まず、どのような学校に研修に行ってきたかということ、明治40年に創立され、今年度で103年が経過している、「東の蔵前、西の都島」といわれた伝統校です。

学科については本校とほぼ同じで、機械科、機械電気科、建築科、都市工学科(本校の土木科に該当)、電気電子工学科(本校の電気情報科に該当)、理数工学科の6学科です。

全校生徒の規模は1200名と、本校のほぼ倍です。やはり大阪であっても工業高校の定員確保が難しい部分があり、一部の学科で総合募集しています。教職員は120名います。それ以外に、非常勤講師が37名で、資格取得などを中心に指導しています。学校運営に関しては、職員会議以外に運営委員会や将来計画などの小委員会を設けて行うという形でした。

本校との違いを説明したいと思います。まず、女子生徒は3%で、本校は20%弱です。1時限を45分として、1日7限という形で授業を行っています。1週間では34単位です。本校では1時限は50分授業で、31単位の

授業を行っています。石川県の工業高校の平均単位数は週 30 単位で、本校は 1 単位多いのですが、都島工業高校に比べると 3 単位少ないです。

理数工学科はほぼ進学に特化した学科で、1 年生から模擬試験等を計画的に行うなど、工業高校といっても少し違うような形で取り組みを行っています。進学と就職の比率は 6 対 4 で、進学の方が多い学校です。この学校の特徴としては、特に高専への編入が多いことです。

先進的な取り組みと言っても、やらなければいけないことを徹底してやっているというのが私の感想です。本校はものづくり大会には、4 学科すべてが北信越大会に出場し、うち 3 競技が 2 位以上に入っていますし、また、本日結果が出ていました部活動においても、男子は石川県内で 2 位です。そのような活発なところも、都島工業高校を参考にして、中学校、企業に対して丁寧に周知していきたいと考えています。本校には学校要覧しかないのですが、企業がたくさんある大阪でも、進路向けのパンフレットを作成し、中学生に対しての PR をしていたので、それは早速来年から取り入れていきたいと考えています。

資格取得については、ジュニアマイスターの経済産業大臣賞を、4 年間のうち 2 年間は都島工業高校の生徒が受賞しています。非常に多くの資格を取得する生徒がいるので、朝の授業が始まる前、1 時間かけて資格の勉強を行っていました。勤務時間以外なので、本校の先生方にそれを言うのはなかなか難しい部分があるのですが、何とか生徒のためにやっていくような方向性を取っていききたいと思っています。

あと、将来計画という形で、先生方が学校をどうしようかと考えていました。本校の生徒は指示待ちのところがちっとあり、先生方もそのようなところがあるので、ビジョンを考えながら、教員自身のモチベーションを高めていききたいと思っています。

今後検討していかなければいけないのは単位数で、今、県の中では、工業高校では一番多い 31 単位をしています。34 単位までできるかどうか、今後に向けてまた検討していきたいと思っています。

今回このような機会をいただき、私自身は非常に刺激になって戻ってきました。大阪から戻ってきて、生徒たちの服装面のだらしなさや、元気なところはいいのですが、違うところで元気なところがあることに気が付いたので、ぜひまた本校の先生方にもこういう機会を与えていただければありがたいと思います。簡単ですが、私の報告とさせていただきます。

佐藤委員長

これは毎年ではなく、何年かに一度でしたか。毎年やるのでしたか。

詩丘市立工業高校
事務局長

本校の教員は 80 名ほどいます。毎年だとちょっと多いので、隔年ぐらいでこういった形を進めていければと思っていますが、なにぶん予算の絡みもあるので、できる限り続けていきたいと考えています。

浅香委員(教育長)

今年度初めて実施しました。

佐藤委員長

今ご報告もありましたが、これは 2 カ月ですよ。2 カ月ほかの職場というか、違った学校にいれば、いろいろなことが見えてくると思います。それが、それ以降の学校運営に大きくプラスになれば、幸いだと思います。もちろん予算の問題もあると思いますが、こういう形のものが継続できれば、よりいいかなという思いがします。

ただ、どこを選ぶかというのは、やはり大切なところ。先ほどお聞きしたら、「東の蔵前、西の都島」と昔からいわれているという、ある意味での名門校なのかもしれません。あるいは金沢市として見たときに、同じようなところでどのような所があるかとか、いろいろな選び方があるでしょう。その辺は、またこういう機会があれば検討していただきたいと思っています。ぜひこの経験を生かして、市立工業の学校運営が改善される方向

で頑張ってください。

その他(2)平成22年度成人式実施結果について

(説明の概要)今年度の成人式を、去る1月8日から10日までの3日間、市内41会場で実施した。会場は、公民館が4会場、ホテル等が32会場、その他(森本中学校、アートホール、文化ホール、地場産業振興センター)が5会場である。該当者数4987名に対して出席者は3260名だった(参加率65.4%)。ちなみに昨年は71.1%で、5.7%減少している。減少した理由として、各公民館から上がってきた報告書の中では、出身地の成人式に参加した、大学の試験や仕事があり出席できなかった、県外の大学等に進学して帰省できなかった等の理由が多かった。本年度の金沢市からの記念品は加賀刺繍オリジナル風呂敷を贈呈している。式は、全体的にはどの会場でもおむね厳粛に行われたという報告を受けている。

佐藤委員長

5%減少というのは、これまでの参加率の経緯の中では、どのようにとらえられるのですか。たまたま今年はそういうことだったのか、その辺はいかがですか。

縄生涯学習部長

過去5年間ぐらいの出席率を見ると、平成17年度が71.9%、18年度が72.5%、19年度が70%、20年度が69.4%、21年度が71.1%と、大体70%を超えるような出席率でしたが、今回急激に減りました。これから各地区の反省会等があるので、その辺で具体的な原因について確認し、来年度は出席率が上がるような方策を考えていきたいと思っています。

佐藤委員長

一時期は荒れた成人式という話もありましたが、今は厳粛であるというお話でしたので、そういう問題はないのでしょうか、やはり参加者が少なくなるのだとすると、これはまた別の問題として大きいところがあるかと思えます。またその状況などを検討していただいて、改善できるようにお願いしたいと思います。

以 上

会議録署名

教育委員長 _____ 署名 _____

教育委員 _____ 署名 _____

(米井委員)

[非公開議案の主な質疑・応答の内容について]

議案第 2 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会への諮問について(歴史建造物整備課)

審議結果についても非公開